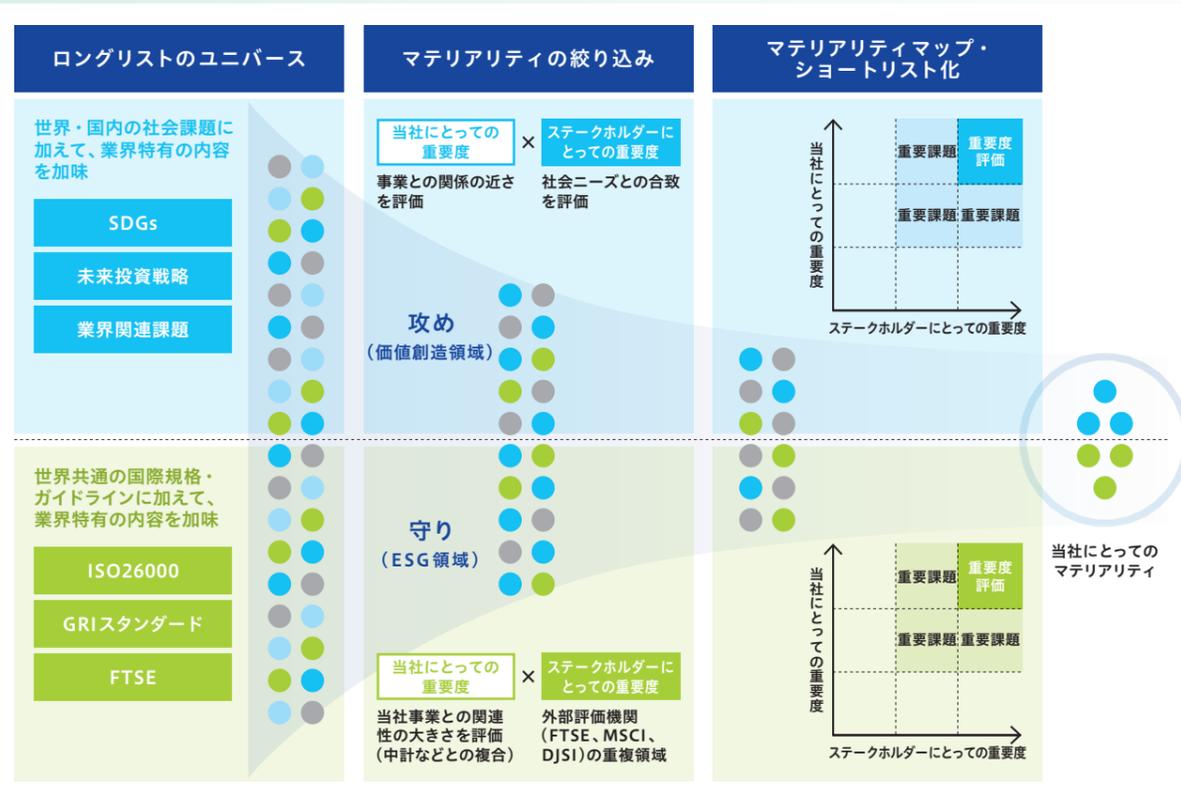


重要課題（マテリアリティ）とその特定

当社グループでは、自社の活動に関連する社会課題を洗い出し、その影響の大きさを社会の変化を踏まえて再評価するとともに、取り組むべき課題に優先順位をつけて取り組んでいます。マテリアリティの特定にあたっては、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を基本に、複数のガイドラインを参考にしました。



マテリアリティ 1 | 表面改質技術による豊かな社会の創出

マテリアリティ 2 | 高付加価値の製品・サービスを世界のお客さまに

近年、気候変動に起因する自然災害（集中豪雨や熱波による山火事など）が世界各地で頻発しています。これらの現象は、主に温室効果ガス(GHG)の排出による地球温暖化が原因とされており、GHG排出量の削減やカーボンニュートラルの実現は、喫緊の課題となっています。工業分野においては、材料の最適活用（適所適材）の重要性がますます高まる中、金属材料は依然として社会になくてはならない資源となっています。しかし、金属材料の製造工程ではGHGの排出量が多く、環境負荷の低減が大きな課題となっています。当社グループでは、金属材料の表面改質技術（防錆処理、耐摩耗処理など）を通じて、部材の長寿命化に取り組んできました。今回、この技術による環境貢献度を定量的に評価した結果、以下のような数値が得られました。

2024年度の当社グループによるCO₂排出量：
約**83**万トン

一方、部材寿命の延伸による年間CO₂排出抑制量：
約**3,128**万トン
この量は森林が年間に吸収する量に換算すると九州全体の面積に匹敵します。

また、2024年の世界全体のCO₂排出量は過去最高の約355億トンに達しています*。この排出量を1,000とした場合、当社グループのCO₂抑制貢献度は0.86/1000に相当します（一定の前提条件を置いた上での当社試算）。

今後は、この貢献度を2050年までに1/1000へと高めることを目標に、さらなる技術開発に取り組めます。

* CO₂二酸化炭素排出量(EI統計)-GLOBAL NOTE

マテリアリティ 3 | 現場で働く人たちの安心・安全衛生の確保

当社グループでは、製造・加工工程における危険有害業務の削減、安全教育の充実、健康増進への取り組みを継続的に推進することで、すべての従業員にとって安全・安心な労働環境の実現を目指しています。

労働災害率改善に向けた重点施策

1. 巡視活動の強化
2. グループ全体の安全標準化
3. 教育・研修の充実
4. IT・デジタルツールの活用

KGI（重要目標指標）労働災害率：

2023年度：2.05 → 2030年度目標：0.50

このような取り組みを通じて、2030年度までに労働災害率0.50の達成を目指し、現場で働くすべての人々の安全と健康を守る環境づくりを推進しています。

マテリアリティ 4 | 多様な価値観を尊重し“力”に変えられる企業文化の醸成

- 女性・障がい者・外国人・中途・シニア等の採用促進
- 女性管理職比率の向上
- 多様な人材が活躍できる働き方、職場環境の整備

➡ 取り組みは、P45「人材育成・活躍推進」をご参照ください。

マテリアリティ 5 | 持続可能な社会の実現に向けた責任のある対応

- 製品含有化学物質管理の徹底
- グリーン調達方針のサプライヤー100%遵守、エネルギー原単位削減への継続的な取り組み
- 資材購入と事業継続計画(BCP)による安定供給への取り組み推進

➡ 取り組みは、P62「サプライチェーン・マネジメント」をご参照ください。

マテリアリティ 6 | 誠実な企業であり続けるための継続的な取り組み

当社は、グローバルに展開する企業として、すべての従業員が安心して声を上げられる環境づくりを推進しています。2026年までに海外連結子会社においても内部通報制度の整備を完了し、企業の誠実性と透明性を守るための体制を確立します。

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) 達成に貢献

